美幌博物館　月刊情報誌

GREEN LETTER
グリーンレター

Vol. 224
2015/05/01

今月の一枚
今月のイベント
参加者募集
GREEN COLUMN
01. 稲美３遺跡の大型住居跡
02. 泳ぎだした魚たち

今月の一枚

Photo

「２階の窓からコンニチハ」

表紙写真・文／八重柏誠

博物館２階にあるロビーの窓の外側で、ニホンカナヘビがウロウロしていました。こんなところにいたら、天敵の鳥に襲われてしまうのではないかと、心配しましたが、カナヘビ君は全く動じていない様子。

翌日、博物館の玄関前に降りて来たカナヘビ君を見かけて一安心。前庭に向かって歩いていく姿を見つつ、天敵に襲われないようにと祈るばかりでした。

Event. 今月のイベント

企画展「せせらぎ公園 絵の花散歩道」 ～5月31日（日）

こどもの日 記念行事 5月5日（火）

モノ作り講座「紙すきをしよう」 5月9日（土）, 10日（日）

プチ工房「動かせる！人形づくり」 5月14日（木）, 21日（木）

Information. 参加者募集

子どもの日 記念行事

● 5/5 ㈫ 9:30 - 17:00 かしわもちの無料配布（先着500名）, 昔なつかしいせんべい焼き体験（雨天中止）, アーティストになれる！カラフルペーパーをつくって、はり絵をしよう ●美幌博物館 ●無料 ●美幌博物館スタッフ ●申し込み不要。

モノ作り講座 「紙すきをしよう」

● 5/9 ㈯ , 5/10 ㈰【午前の部】10:00-12:00,【午後の部】14:00-16:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（100円）, エプロンまたはスモック , 手ふき ●福田春美（美幌博物館）●美幌博物館へ電話申込み（5/1 - 5/8 ）。対象は幼児から一般、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。各回定員16名。

プチ工房 「動かせる！人形づくり」

● 5/14 ㈭ , 21 ㈭ 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（200円）●福田春美（美幌博物館）●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座（自然編）「マルハナバチと外来種問題」

【講演会】● 6/6 ㈯ 16:00 - 17:30 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●石井博（富山大学）●申込み不要 【観察会】● 6/7 ㈰ 9:30 - 12:00 ●美幌町内 ●保険料（100円）, 野外で活動できる服装 , 雨具 , お持ちの方は虫あみ ●石井博（富山大学）●美幌博物館へ電話申込み（5/1 - 6/3）。キャンセルは6/3㈬まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。定員25名。

博物館講座（歴史編）「粘土をこねて土器をつくろう」

【土器作り】● 6/13 ㈯ 9:30 - 11:30 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費・保険料（600円）, 汚れても良い服装 , タオル【野焼き】● 7/4 ㈯ 9:30 - 14:00 ●美幌みどりの村キャンプ場 ●汚れても良い服装 , 軍手 , 昼食 , 飲みもの ●八重柏誠（美幌博物館）●美幌博物館へ電話申込み（5/1 - 6/10）。【野焼き】のキャンセルは7/1 ㈬まで。それ以降は保険料100円がかかります。中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。定員16名。

今月の休館日

7日，11日
18日，25日

〈凡例〉●日時 ●場所 ●費用 , 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN
グリーンコラム

稲美３遺跡の大型住居跡

写真・文／八重柏誠

あまり知られていない美幌町の遺跡に、スポットライトを当てることを目的とした春のミニ展示。今年は「稲美の遺跡」と題して、稲美地区の遺跡について紹介しています。（５月６日まで）

この展示では、発掘調査された遺跡について、資料や展示パネルを用いて紹介しています。このうち、稲美３遺跡については、過去に特別展で紹介した程度ですので、皆さんにはあまり馴染みがない遺跡かもしれません。出土した遺物の量は土器片 1,324 点、石器類 436 点、チップ・フレイク 32,021 点、礫（れき）829 点、と縄文時代の遺跡としては量が多いわけではありません。しかし一方で、竪穴住居跡 12 軒、土壙 50 基と比較的多くの遺構（いこう）が確認されている遺跡でもあります。これらの遺構のうち、竪穴住居跡３と名付けられたものは、大型住居跡（ロングハウス）と呼ばれる特殊なものです。大きさは長軸 13.26m、短軸 4.54m で、上から見ると長方形となっています。竪穴住居跡は、直径５m 前後の円形をしたものが一般的ですので、通常の竪穴住居跡の倍以上の大きさであること、形状が現代の長屋のようであることがわかります。写真は発掘調査中の様子で、特徴的な長方形の形状が黒土によって分かるかと思います。またこの住居は、炭化した木材が確認されていることから、火事にあったものと考えられています。

大型住居跡は、縄文時代の各時期に見られる遺構ですが、その用途は共同作業場や冬の間の共同住居など、様々な説が唱えられています。稲美３遺跡の大型住居跡が、どのような目的で作られたものなのかは、残念ながら明らかになっていません。

02 GREEN COLUMN
グリーンコラム

泳ぎだした魚たち

写真・文／町田善康

泳ぐ・食べる・走るなど、その生き物が本来持っている動きを引き出す展示を、行動展示と言います。旭山動物園の展示が先駆的で、チューブの中を通るアザラシや、まるで空を飛ぶように泳ぐペンギンをご覧になったことがある方もいらっしゃることでしょう。

さて、博物館では、1階ロビーに大きな水槽を置き、美幌川にくらす魚たちを紹介しています。しかし、ヤマメやアメマスなどの渓流魚は、1ヶ月も飼うと頭が丸くなり、太ってしまいます。また、お互いがケンカをし、ヒレもボロボロになります。そのため、川で見るような生き生きとした様子を伝えることがとても難しい魚です。これまでも試行錯誤しましたが、この問題を解決することはできませんでした。このことは、他の水族館でも同じ様で、渓流魚が美しい状態で展示されているのは見たことがありません。

そんな中、閉館期間中に館内の掃除をしていたところ、ウチダザリガニの飼育で使っていた水中ポンプを見つけました。早速、水槽に取り付けてみると、今までボーっとしていたヤマメやアメマス達が、川に潜って見る時と同じように泳ぎ始めたではありませんか。そして、大きな石を所々においてあげると、ケンカに弱い個体は石の影に隠れて、強い個体からの攻撃を巧みかわしていたのです。

さらに、流れができたのでバイカモを植え、清流美幌川を再現してみました。バイカモは毎回枯らしてしまっている植物なので、成長し、花を咲かせてくれればと思っています。

出来る限り、魚本来の行動を皆さんに見て頂けるよう、工夫を凝らす日々は続きます。

【発行】
美幌博物館

【デザイン・編集】
城坂結実

【お問い合せ先】
美幌博物館
北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4
Tel ／ 0152 (72) 2160　Fax ／ 0152（72）2162
mail ／ museum@town.bihoro.hokkaido.jp
http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html
無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき

雪が解けると、埃っぽさと共に土の匂いがして、春の訪れを感じます。しかし、鼻がムズムズ、目がかゆい。もしかすると、花粉症になったのかもしれません。気持ちが良い、春の訪れのはずなのに、今年は少し鬱々とした気分です。（町田）